

新たに「英靈」生む氣か

戦争に乗り出す危険性は、
そう高まっています。

靖国を「復活」

本殿での参拝に向かう隊列には、笑みを浮かべる議員の姿が。暗い回廊のせいか、その表情が少し不気味に見えました。2代の筆者の目に映った「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」の集団参拝（18日）の『風景』です。

靖国神社は戦前、戦死した軍人などを「軍神」としてまつるなど、國民を侵略戦争に動員する役割を担いました。戦後はアジアと日本の國民に多大な犠牲を強いたA級戦犯がまつられたほか、付属の戦争博物館「遊就館」では日本の過去の侵略戦争を「正義の戦争」と美化するなど、戦争加害責任や近隣諸国の立場を無視したむがんだ歴史観を広める施設となっています。

「新しい戦前」

参拝後の会見で団体の邊沢一郎副会長は、「英靈顕彰の大切さ」に言及。また、再来年には、第2次世界大戦から参拝後の会見で団体の邊沢日本が武力攻撃を受けていないとして海外で米軍を支援する

火箱芳文元陸上幕僚長は「戦死する自衛官が生起する可能性は否定できない」と『日本の息吹』8月号で主張。自衛官の戦死に備えて靖国神社を国家の「慰靈顕彰施設」として「復活」させよとも書いたことがあります。

今回の参拝と会見に参加した元自衛隊幹部の佐藤正久参院議員（自民党）は自身のブログで「日本に有事があた場合、自衛隊員が命を落とした時に、靖国神社に祭られるかどうか議論しておかねばならない」と語っています。

自衛隊基地の強制（きょうじん）化などの大軍拡とともに近づいてくるのが、憲法を踏みにじる軍縮の意です。あの笑みを浮かべた議員らが狙うのは、靖国神社に新たな『英靈』を迎えるとの企てに他なりません。

（島田勇登）

基地強化・大軍拡の先に…

1919年7月

靖国議連が集団参拝

逢沢氏「英靈顯彰繼承を」

解してくる」と述べました。

「英靈顯彰」とは、

自民党などの「靖国議員でつくる会」（会長・尾辻秀久）が「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」（会長・尾辻秀久）が参拝後、過

去の日本の侵略戦争に動員した戦前の靖国神社の役割そのもので

議員も含む96人（代理を除く）の国会議員が参加しました。

同会の逢沢一郎副会長（国民衆院議員）が参拝後に記者会見し、「英靈顯彰の大切さ」を次世代に語り継ぐ」とが「私たちの大いなる役割、使命だ」と発言。岸田文雄首相の同神社への真摯（まさかき）奉納（17日）への見解を問われた逢沢氏は、「首相として、一人の政治家の意思表示として非常に適切な行動であった」と評価しました。現職の首相が同神社参拝を躊躇っている現状については、「総理として、政治家としての判断だ」というふうとわれわれも理



本殿での参拝に向か
う議員ら18日、東
京都千代田区